

環境影響評価審査会風力発電所部会議事録

- 1 日時：平成18年2月15日（水）15:00～18:00
- 2 場所：神戸市教育会館404会議室
- 3 議題
 - (1)CEF兵庫ウインドファーム事業に係る環境影響評価準備書の審査について
- 4 出席委員：山口部会長、朝日委員、大迫委員、北村委員、澤木委員、田中眞吾委員、藤井会長
- 5 事務局：長谷川健康生活部参事（環境技術担当）
環境影響評価室 勝野室長、鷲見課長補佐外室員3名
- 6 関係部局：自然環境保全課、大気課、森林動物共生室、治山課、森林保全室、景観形成室、文化財室、但馬県民局
- 7 参考人：阿部 明士（元日本イヌワシ研究会会長、兵庫県環境審議会鳥獣部会特別委員）
- 8 配布資料：
会議次第
出席者名簿
補足資料 段ヶ峰地区周辺に生息する猛禽類調査報告書（中間報告）
- 9 議事概要

参考人より予定地におけるイヌワシやクマタカの飛翔や採餌行動、イヌワシの生態（眼の構造）及び営巣地等について説明

（委員）今の環境で、イヌワシが増殖しないとすれば、いなくなるのはいつ頃か。餌場を人工的に作るのは可能か。飛翔図の精度は。

（参考人）この場所のイヌワシは、4、5歳のメスと思われ、寿命は30年程度である。他の林地で餌場を人工的に作ることは無理である。飛翔図は、観測者が現場で飛翔確認後直ちに地図上に落としており、誤差はほとんどない。

（委員）大きな人工物ができた時に、イヌワシやクマタカの成鳥がそこを避けたとの事例はないか。

（参考人）狩場なので回避して飛ぶことはないと思う。アメリカの例では年間40羽ぐらい死んでいるが避けることはない。

（委員）飛翔しているものは、同一個体のイヌワシか。それが縄張りを形成しているのか。

（参考人）一羽で縄張りを形成している。

（委員）餌を探す時の尾根上の飛翔行動は、どのくらいの高度か。

（参考人）普通地上から20～30mであり、500m～1km先からでも獲物を探している。

（委員）段ヶ峰やフトウガ峰は、周氷河地形である。

（参考人）そのような環境に生息している。その上で適切な断崖の営巣地があればよい。

（委員）今ある環境や過去にいた環境を守らなければ減っていく。その場所に障害物があれば影響は大きい。数十年先を考えるべきである。

（委員）絶滅を危惧した場合、生息環境を守ること等は行政にお願いしたい。

（参考人）イヌワシがいるか、いないかの判断は難しい。完全になくなったことを証明することは非常に難しい。現在生息している。この地のイヌワシがいなくなることは、避けてほしい。